

2012(H24)12.4

長崎

文化

culture

平戸焼水柱 将軍家へ



長崎陶磁に関する最新の調査成果が発表された東洋陶磁学会
|| 長崎歴史文化博物館

佐賀県立九州陶磁 大橋氏が報告 文化館特別学芸顧問

大橋氏は「水柱の細工は有田焼にはみられない」と指摘し、「水柱や香炉など細工物は平戸藩が献上していた」との見方を示した。
このほか、現川焼、長与焼などの発掘調査結果や、海外へ輸出された長崎陶磁の所在状況と流通ルートに関する発表があった。
(松尾潤)

東洋陶磁学会(今井敦委員長、約700人)の第40回大会が11月23日から3日間、長崎市立山1丁目の長崎歴史文化博物館で開かれた。江戸期の本県で製造された「長崎陶磁」について最

東洋陶磁学会が大会

新の調査成果が報告された。1973年に設立された東洋陶磁学会の大会が本県で開催されたのは初めて。三川内焼、波佐見焼、亀山焼など海外にも流通した長崎陶磁について知ろう

「長崎陶磁」で最新調査成果

教育社会学者の多賀太関西大教授が「教育する父親の時代？」と題し東京都内で講演。「競争社会の中で子どもの中学受験に積極的に関与する父親が増えたが、母親の負担軽減にはつながっていない」と述べた。

父の教育熱母助けず

多賀太・関西大教授が講演

共同参画や少子化対策の文脈で父親の育児参加が叫ばれ始めた」と説明した。その後、競争社会の本格化を受け、家族階層の上昇や下リスク回避の戦略として中学受験を重視する風潮が定着。マスコミの影響もあり、塾の送迎や学習指導、学校情報の収集に積極的な



「水のかたち」(上下巻)

50代迎

せず、自然体で生きる志乃子の人間性は、善きつなかりを呼び寄せる。宮本さんも更年期障害の経験があるという。「50代は精神的、肉体的にネガティブになる。でもこの小説を読み、50歳は人生の始まりだと思ってくれたらうれしいです」

観覧車

父性が高い商品に仕上げ市場に流通させようと取り組んでいる。そうした施設の一つ、大阪の「アトリエインカーブ」理事長の今中博之さんは著書「観覧車」で「生きがい」としての制作活動と「就労」としての制作活動。二項が対立することなく共存するのが望ましいとしている。ツナグファミリアはすでに福岡の障害者の作品をTシャツなどに商品化。次は長崎の作家の商品を見たい。生きがい、就労、ファッション性も兼ね備えて「欲張り」だろうか。
(関根めぐみ)